２０２６年11月２日 (一社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会　Ｎｏ.220

全難聴便り

発行：事務局 〒162-0066
東京都新宿区市谷台町 14-5
MS ビル市ヶ谷台１Ｆ
編集：全難聴事務局
電話：０３（３２２５）５６００
FAX：０３（３３５４）００４６
URL：https://www.zennancho.or.jp
E-Mail：zennancho@zennancho.or.jp

第 30 回全国中途失聴者・難聴者福祉大会 in 京都

2026 年 10 月 17 日（土）～19 日（月）京都テルサで第 30 回全国中途失聴者・難聴者福祉大会in京都が開催されました。初日は４つの分科会が開かれ、夜はテルサホールで懇親会が行われました。参加者はおいしい食事に舌鼓を打ち、心ゆくまで交流を楽しみました。２日目は午前に佳子内親王殿下をお迎えして式典が行われました。午後には田川雅規氏による『心を耕し笑顔の種を蒔こう～スキをステキに換える日々～』と題した記念講演、八田誠治氏による京都の伝統産業についてのお話、みみライフ企画、引継ぎ式などが行われました。

第３０回全国中途失聴者・難聴者福祉大会 in 京都実行委員長あいさつ

2026 年 10 月 17 日（土）～19 日（月）の福祉大会 in 京都にご参加の皆さま、ありがとうございました。お陰様で天気にも恵まれ、YouTube 視聴含め 650 名ものご参加をいただくことができました。

皆さまのご協力とご支援により、無事に終えられましたこと、実行委員一同、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

私たちの準備不足で、行き届かなかったことが多くあったかと思います。大変申し訳ございません。大会を終えてからの振り返りでも、反省することが多くあります。この振り返りも、次回開催地に繋げていきたいと考えております。

今回の大会には佳子内親王殿下がお成り、おことばをいただくことができ、多くの報道により「中途失聴・難聴に理解を」と社会に広められた意義のある記念大会になったと思います。

皆さまの記憶に残る福祉大会となっていれば嬉しく思います。ありがとうございました。

次回は、熊本でお会いしましょう。

第 30 回全国中途失聴者・難聴者福祉大会 in 京都　実行委員長　西岡　保

分科会報告

第１分科会

労働・雇用対策部　部長　谷口 学

京都における福祉大会で、労働・雇用対策部は、分科会とブースの両方を初めて担当しました。第 1 分科会では「難聴者の就労実態と職場での困りごと」をテーマに取り上げました。分科会では、勝谷先生の講演、全国 274 人の回答による就労実態アンケート報告、荒谷さん・笹木さんの体験発表、パネルディスカッションを行いました。職場での孤立や合理的配慮の状況を数字と声から捉え、当事者の経験と重ねながら、本人と職場がともに働きやすさを考えました。

参加者アンケート 59 件のうち、「とても参考になった」は 25 件、「ある程度参考になった」は 28 件でした。参考になった内容では体験発表が 39 件と最も多く、アンケートの数字だけでは分かりにくい実情が具体的に理解できたとの感想がありました。ロジャーの導入事例から、自分も職場に相談・交渉してみたいという声や、手帳を持たない人の困難を初めて知ったという声も寄せられました。

ブースでは、全国就労実態アンケートの結果や活動紹介を展示し、シール投票「職場あるあるランキング」、付箋で経験や要望を寄せる「みんなの声」、聞こえる人と聞こえにくい人に向けた無記名アンケートを実施しました。レポートやサポーター募集のチラシも配布しました。

シール投票は「一つだけを選べない」という多くの声を受け、複数回答に変更しました。７項目全てに貼る人も相次ぎ、職場で困る場面が多岐にわたることを実感しました。一方、チャットやアプリによる社内の情報共有、ヨメテルの活用で自営業など働き方の選択肢が広がる事例も聞かれました。当事者の声を直接聞き、働く現場の実情を社会に伝える必要性を改めて感じました。

情報保障や会場の見えやすさ、進行の時間配分には課題も残りました。参加者の声を今後の企画・運営と、働きやすい職場づくりに生かしていきます。ご協力くださった皆様に感謝申し上げます。

第２分科会　要約筆記部　部長　藤谷弘晃

テーマは、「全難聴と要約筆記の誕生から半世紀を経て　～原点からの方向性、両者の協同の取り組み、派遣制度の課題を考える～」で１９７名の方にご参加いただきました。

３部構成で、第１部は、「要約筆記サークルの誕生、活動で大切にしてきたこと」をテーマに、京都市要約筆記サークルかたつむり会長の太田寿氏、ＯＨＰ要約筆記等研究連絡会・まごのて代表の下出隆史氏から誕生の経緯や活動に関わっての難聴者の意見、ボランティアを維持するのに必要なことなどをお話しいただきました。

第２部は、「難聴者協会と要約筆記者での協同」をテーマに、愛知県での「難聴者理解と福祉教育の取り組み」を（特非）愛知県難聴・中途失聴者協会の黒田和子氏、「広島県障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する条例」への取り組みを（特非）広島県難聴者・中途失聴者支援協会の伊達元一郎氏から、共生社会を進めるために、長年の学校や地域での難聴者と要約筆記者の協同の取り組みについて発表していただきました。

第３部は、「合理的配慮提供の義務化のなか　要約筆記者の派遣の壁」をテーマに、（特非）愛知県難聴・中途失聴者協会 江連紀子氏、（特非）東京都中途失聴・難聴者協会 石川千鶴氏から、教養・自己啓発、冠婚葬祭、資格取得の学びの場に要約筆記者の派遣が制限されたとの報告がありました。

最後に助言の全要研理事長の長尾康子氏、全難聴理事長の宿谷辰夫氏からは、要約筆記事業はある程度確立したものの、難聴者が生活をする上でのバリアや音声情報にアクセスできない場面は多く、要約筆記者がその知識や専門性を生かしながら支援者として難聴者と協同していくことが共生社会に繋がること、合理的配慮の義務化が意思疎通支援事業を後退させることがあってはならず、派遣制度の狭間が生じないよう全要研・全難聴で取りくんでいきたいとのまとめをいただきました。

第３分科会　きこえの健康支援部　部長　瀬谷和彦

テーマ：「きこえの健康支援と地域協会の新たな役割」

第３分科会は、寸劇、活動報告、全体意見交換会の四部構成で実施しました。

第一部では、寸劇「西遊記～孫悟空よ、こっちにおいでよ。～」を上演しました。難聴を受け入れられず、聞こえたふりをしてしまう孫悟空の姿を通して、当事者の葛藤を描きました。リアルな演技も好評でした。

第二部では、「きこえの健康支援」の今後の方向性として、当事者主体の参加型・対話型懇談会の重要性を確認し、兵庫県を中心とした地域協会の実践事例を紹介しました。
第三部では、寸劇「西遊記～孫悟空よ、よかったね！～」を快演。懇談会を通じて難聴を受け入れ、同じ悩みを持つ仲間に参加を呼びかける孫悟空の姿を描きました。
第四部の全体意見交換会では、全国の地域協会が抱える課題や取り組みについて意見を交わしました。「自治体になかなか話を聞いてもらえない」といった声も上がり、行政との連携や地域での支援のあり方について活発な議論が行われました。
今回、改めて確認できたのは、「Nothing About Us Without Us（私たちのことを、私たち抜きに決めないで）」という理念の大切さです。きこえの健康支援は、当事者自身が主体となり、地域の実情に合わせてつくり上げていくことが重要です。きこえの健康支援部では、今後６年間を見据え、各地域の取り組みを一つずつ積み重ね、全国に広げるための強固な基盤を築いていきます。地域で「きこえの懇談会」を開催したい方、きこえの健康支援に取り組みたい方、活動について相談したい方は、ぜひ当部にお声がけください。皆さんと一緒に考え、学び合いながら、それぞれの地域に合った取り組みを形にしていきます。分科会での具体的な報告や意見交換の詳細は、後日発行される大会報告集をご覧ください。全国の皆さんと力を合わせ、きこえの健康支援の輪を広げていきましょう！

第４分科会　京都実行委員会　北川千夜子

第４分科会は参加者とともに創り上げた分科会です。聞こえにくくなると音声によるコミュニケーションや情報の障害を引き起こします。情報の受け手となる当事者の困りごとはもちろんですが、コミュニケーションは双方向のものであり、送り手となる相手も困っている現状があります。現代の高齢化率の動向では、加齢とともにきこえに不安を感じる当事者の割合は確実に増加していきます。その家族やサポートするまわりの方も増えることから、誰もが双方の立場になり得ます。福祉大会開催の目的趣旨を鑑みて、当事者や関係者だけでなく今回は身近な家族などにも参加を呼びかけ、お互いに孤立化しないコミュニケーションを一緒に学び考える場の実現を目指ししました。皆さまへ深い感謝とともに３つの視点で報告します。

⑴　オープニング

「きこえの疑似体験」で音は聞こえるが言葉は聞き取れない状況（一例）を、参加者に体験してもらいました。同じ状況下で要約筆記を見る体験もしてもらいました。「きこえについてのクイズ」は一般の方を想定して簡単な○×クイズで認識度を把握しました。各自の発信のたたき台になれば幸いです。

⑵　双方の声を聴き、学び合う方法

一般の方、参加者の意見をできるだけ取り込みたいと考えてきました。事前アンケート（142件）実施、当日約 180 人を対象にシール投票や付箋を使ってアンケート実施、そして全員で交流の時間を持ちました。当事者からは「家族との会話に入れない」「難聴をわかってもらえない」など、まわりの人からは「当事者はこんな時どう思うのか教えてほしい」など、切実な困りごとを共有し合い、最後は参加者自身が明日からの一歩を気づき出し合いました。やはりこのような場は大切だと体感できました。

⑶　専門家からの講演（心理学専門家の佐野智子先生）

お互いに通じ合わないことで生じる孤独感やイライラなどの心理面の課題解決に向けても、双方に知ってほしいこと、相互理解という着地点へ導いてくださり、参加者からも大絶賛でした。

第４回オンライン研修会のご案内

第４回オンライン研修会を以下の通り開催します。

日時：11 月 13 日（金）19：00～21：00
講師：公益財団法人　共用品推進機構
https://www.kyoyohin.org/ja/index.php#gsc.tab=0
専務理事・事務局長　星川安之様
テーマ：えっ？　そうだったんだ！
「？」が「！」に変わる「共用品」の話
申込締切日：**11 月６日（金）まで延長**
申込方法：以下のどちらかの方法でお申込みください。
1）下記の URL から申し込む。
申込 URL　https://forms.gle/QEBkzDyxR6HmiyXr8
2）メールで必要事項を記載して全難聴事務局へ送信する。
①お名前
②研修会に参加するメールアドレス
③お住いの都道府県名
④所属（全難聴加盟協会員・要約筆記者・その他）
送信先メールアドレス：zennancho@zennancho.or.jp
参加費：2,000 円
※詳細は全難聴 HP から　https://www.zennancho.or.jp/6764/

理事・専門部の動き（10/1～10/31）※専門部は対外的活動のみ掲載

10 月 9-10 日　ともともフェスタ 2026（宇田川、山口）
10 月 10-11 日　令和８年度全難聴・全要研東北ブロック大会 in ふくしま磐梯熱海（瀬谷、永井）
10 月 13 日　JDF 政策委員会 ONLINE（伊達、瀬谷）
10 月 13 日　聴覚障害者制度改革推進中央本部会議 ONLINE（藤谷、宇田川）
10 月 17-18 日　第 30 回全国中途失聴者・難聴者福祉大会 in 京都（理事 16 名、監事２名）
10 月 21 日　JDF 能登半島支援連絡会議 ONLINE（宇田川）
10 月 26 日　放送分野における情報アクセシビリティに関する指針についての意見交換（小川）
10 月 27 日　JDF 幹事会（宇田川）
10 月 29 日　第７回「障害者による情報取得等に資する機器等の開発及び普及の促進並びに質の向上に関する協議の場」ONLINE（黒田）
10 月 30 日　第７回「ともともフェスタ 2026」ワーキングチーム（宇田川）

《11 月の予定》
11 月５日　第 89 回障害者政策委員会
11 月 10 日　JDF 政策委員会
11 月 12 日　共用品推進機構 第 27 回活動報告会
11 月 13 日　第４回オンライン研修会
11 月 15 日　75 周年記念新光会全国総会姫路大会
11 月 16 日　「本田賞贈呈式」
11 月 24 日　JDF 幹事会